エゾシロチョウ

Aporia crataegi

シロチョウ科

エゾシロチョウ　撮影−平林照雄

名前の由来

蝦夷（北海道）に産する白いチョウの意味。チョウ（蝶）という言葉はもともと「漢語」から取り入れたものである。
漢字名：蝦夷白蝶

特定種

該当なし。

形態的特徴

翅脈のはっきりした大型のシロチョウ。大きさはモンシロチョウより大きい。オスメスともに翅表は白色、翅脈のみ細く黒色で、翅脈端に略三角形の小形暗色班がある。
メスは白色鱗の発達が弱く、前翅基半の鱗粉のつきかたはまばらであるが、野外で採集されるメスではこの部分がほとんど半透明に近くなったものが多い。これは交尾を求めるオスがメスの背中に乗り、足でメスの翅の基半を乱暴にひっかくためである。

エゾシロチョウ。表（左がオス、右がメス）

エゾシロチョウ。ウラ（左がオス、右がメス）

類似種と見分け方

他の白いチョウ。
エゾシロチョウは格段に大きい。

エゾスジグロシロチョウ。表（左がオス、右がメス）
紋がある

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期												
幼虫期												
蛹期												
成虫期												

生育環境・分布

林間、林縁などをやや高く飛翔しアザミ類などの草花に集まる。

分布：国外分布は、ヨーロッパから極東アジアに至るユーラシア大陸。国内分布は、北海道のみ。北海道内分布は、全域。

十勝地方では、低地から山地まで広く分布し、普通に見られ、数も多い。

繁殖生態・寿命

年１回の発生。成虫は平地では6月中旬～7月中旬頃、山地では７月上旬～８月上旬頃に出現する。越冬態は３齢幼虫。産卵時は食樹の張り出した枝の葉裏に200個ほどの大卵塊をつくる。

孵化した幼虫は集団となり、吐糸により簡単な巣をつくる。秋には葉を２～3枚つづり合わせ、枝に固定させた越冬巣をつくり、その中で越冬する。春になって芽吹きとともに活動を再開し、食樹のつぼみ、若葉を食い荒らす。

終令になるにつれ集団はやや分散していくが、蛹になるまで集団をつくるものもいる。集団を人為的にこわし、単独で飼育すると発育が遅れ、集団生活は生理的にも影響を与えていると考えられる。寿命：不明。

他生物との関わり

＊各種サクラ類、エゾサンザシ、エゾノウワミズザクラ、ボケ、ナシ、アンズなどのバラ科植物を食樹とする。

＊幼虫には寄生蜂がつき、大型のヒメバチの一種、コマユバチの一種が記録されている。市街地では山地よりも寄生率が高いように思われ、絶滅に近い被害を受けることが多い。このためエゾシロチョウの大発生が時として抑えられるものと考えられる。

＊そのほか寄生されて死んだ蛹に蝿が飛来して吸汁するのが見られ、生蛹はワラジムシに食べられることがある。

幼虫の食性（食草・食樹）

各種サクラ類、エゾサンザシ、エゾノウワミズザクラ、ボケ、ナシ、アンズなどのバラ科植物。

エゾノウワミズザクラ。エゾシロチョウ幼虫の食樹の一つ

興味深い話

■メスはアカツメクサやアザミなどで吸蜜するが、オスは山道の湿った地面で吸水し、時には1000頭もの大集団を作ることがある。以前はむしろ少ない種とされていたが、昭和４７年～５０年ごろにかけて急に数が増え始め、特に市街地で大発生を繰り返したことからしばしば新聞ニュースにもなった。大発生したときは街路樹の葉が食い尽くされて葉が一枚もないほどになることがある。このチョウは元々サンザシ、エゾノウワミズザクラなどを食べていたが、突然サクラ、ボケ、リンゴなどの栽培種を食べるようになり、山地から市街地へと侵出したのである。しかし自然のしくみはうまくできていて、いつのまにか天敵の数も増え、今では1000頭もの吸水集団はみられなくなった。幼虫は食樹の枝に協力しあって糸の巣をつくり、集団で越冬し、6月に成虫となる。

■羽化時においてはオスが先に出て、メスが羽化するのを待ち、メスが羽化するとすぐに交尾を行う。

■十勝地方のアイヌ語では、白いチョウ類を「イソポマレウレウ」、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

配慮事項

特になし。

参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男　北隆館　1990

「日本のチョウ」海野和男・青山潤三　小学館　1981

「原色昆虫大図鑑Ⅰ（蝶蛾編）」北隆館　1978

「学研生物図鑑　昆虫Ⅰチョウ」監修 白水隆　学習研究社 1983

「北海道昆虫ガイド」北海道昆虫同好会　北海道教育社　1984

「十勝の蝶」大和与三追悼集　十勝蝶の会　1993

「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男　北海道新聞社　1986

「原色日本蝶類生態図鑑（Ⅰ）」福田晴夫・浜栄一他　保育社 1982

「コタン昆虫記（4）チョウ篇」井上寿　十勝地方史研究所 1988

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社　1976